



今度のネパールは久しぶりで会う人たちとたくさん話してきました。ガイドは前に友人たちと日本でも遊んだ仲間だし、自転車で日本を出て3年目の友人も来てくれました。昔世話になったガイド達とも道で会い喜びあった。ホテルの部屋は毎晩宴会場となり、10名以上の日本人や、ネパール人、ブータン人、モンゴル人が車座になって飲んだり歌ったり、踊ったり、そして真剣な話が明け方まで延々と続いた。モンゴルの女性は空港からまっすぐ私たちの夕食会に来て、そのまま最後まで部屋でみんなと話し込み、ブータンの青年はまじめな悩みを語り続け、ネパールの青年はうまく語れない心を表現しようとし、ガイドたちは警察の

悪口から、軍の話、政治、歴史、宗教、おどり、歌ときりがなく話題が広がってゆき、現地駐在の日本青年は、みんなからはやされてネパールの踊りを踊り出し私たちも踊った。横笛が鳴り、太鼓が鳴り、朝になると何人もがそのまま泊まっていた。みんな嬉しかった。

ナムチエバザールの北の斜面を登りきるとあたりは大きく空が広がって、ヒマラヤの山々に広く囲まれた。モンゴルで気強く馬を乗り回し、男たちと対してきた女が「こんなにきれいだったなんて・・・」と涙ぐんだ。美しい稜線を歩き、エベレストビューホテルのテラスでエベレストを見上げながらお茶を飲み、女神の山クンピラの麓に広がるクムジュンの村に回った。明るく広く白いチョルテンの後ろにのびやかに広がる美しい村であった。

友人たちと再会してからポカラへ遊びに行き、マチャプチャレがマッターホルンのように目の前に広がる山の上のロッジでたくさん話した。女たちは3人で五右衛門風呂に行き、中で笑い死にしそうなくらい騒ぎ、その笑い声が夕暮れの山にこだましていった。

日本に帰る頃、ガイドの家族と歩いていて男の子がバイクに引っかけられ、軽いけがをし、翌朝、彼は子供をバイクに乗せて町の反対側にあるお寺に「もっと落ちつきを持ちますように。」と祈りに行った。その夜2時頃ホテルが火事になり、上の階が燃え。みんな避難したらしいが、こちらは部屋で宴会の最中であり、様子を見に来た真っ黒くなって消火作業中だったスタッフに酒を飲ませては「がんばれ。」と送り出した。尚子さんは「確認してきます。」と見てきてから「すごいことになってます。消防士も来ていて、金ダライをかぶってました。」と言いながらも結局4時過ぎまで飲んでしまった。翌日、空港警備の銃口の前で、別れの時、女たちはいっぱい涙を流した。みんなきっぱりとした表情であった。一番大切なものは人なのだと、そのいきいきした目の輝きなのだと、改めて知った。

ノーム相変わらず忙しく、5月31日に東京ビックサイトで行う講座の準備もあり当分遊んだ分は精出して働いております。しかし友人達の来訪はいつでも歓迎します。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com